

今月の PICK UP



『本の力』酒井 京子/著 童心社 726.6 サ

著者が編集者として世に送り出した一冊に、「おいしいのぼうけん」があります。この絵本は作家・古田足日さん、画家・田畑精一さん、編集者としての著者が三位一体となって3年がかりで創り上げました。

絵本の制作を通じて「本の力」を感じた瞬間のこと、当時の社会状況や編集現場での様子などが編集者ならではの視点で書かれています。また、この本は売り上げが240万部を超えたロングセラーの絵本ですが、「何でこんなに売れているんだろう?」と古田さんに聞かれ、著者は「それは、ねずみばあさんじゃないんですか。」と確信を持って答えたとそうです。詳しく知りたい方は、是非とも「おいしいのぼうけん」も読んでみて下さい。

司書の おすすめ

『「勘違い」だらけの日本文化史』八條 忠基/著 淡交社 210.1 ハ



世の中の常識とされている事が本当は全く違っている、ということがあります。例えば、日本サッカー協会のシンボルマークで有名になった八咫鳥ですが、もともとは三本足ではないそうなのです。この本では、なぜ違うものになったか、その理由を明らかにしています。

著者は有職故実の研究者で、文献の解説や装束の再現に取り組んでいる、いわば古典の専門家です。この本を読むと、勘違いで伝わった史実を知る驚きとともに、クスッと笑える事実が気持ちよく和みます。

『写真と図で見る ロープとひもの結び方大全』ロープワーク研究会/著 西東社 786.0



日々の生活の中で、ひもを結ぶ場面は多くありますね。この本では、キャンプ、釣り、園芸、荷造り等の目的に分けて、約200種類もの結び方が紹介されています。

結びの基本は「ひっかける」「ひと巻きする」「完全に巻きつける」「縛る」。これらを組み合わせることにより、それぞれの用途に合った結びができます。あなたの生活に必要な結び方をぜひ見つけてください。

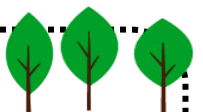
『子どもと一緒に覚えたい木の実の名前』小南 陽亮/監修 加古川 利彦/絵

マイルスタッフ 471.1 コ



大人より地面に近い目線を持つ子どもたちは、落ちている木の実を上手に見つけてきます。本書は、そんな子どもと一緒に散歩に出かける街中や公園など、身近な場所で見られる木の実を集めた図鑑です。拾った木の実の楽しみ方や、間違えやすい木の実についてのミニコラム付き。子どもならず大人でも、木の実を拾って帰りたいくなります。

『Day to Day』講談社/編 講談社 913.6 コ



「Day to Day」は、コロナ禍の中で出版社と作家にできることは何かという思いで始まった企画です。好きな物語と出会えるサイト「tree」にて、2020年4月1日以降の日本を舞台に、作家が1日ずつ書いた掌編が連載されました。

100人の作家たちが紡ぐ物語やエッセイを収録した本書は、1編 3~4ページと短いので読みやすく、^{そうそう} 錚々たる顔ぶれによる様々な語り口の作品を楽しめます。

